

文献参照または引用の記載にみるアーカイブ資料の識別

西村由希子†, 五島敏芳†

† 京都大学総合博物館

(連絡先) 五島 h.gotoh@inet.museum.kyoto-u.ac.jp

(要約)

本報は、日本におけるアーカイブ資料の識別方法を、関連するメタデータ標準類の定める内容に照らし、学術雑誌掲載論文の記載状況を概観することによって明らかにする。具体的には、メタデータ標準類に EAD, MARC-AMC, DACS, APPM, MAD 等を取り上げ、論文の事例を社会経済史学会発行『社会経済史学』誌にもとめる。メタデータ標準類は、記述ないし検索手段におけるアーカイブ資料利用時の引用・参照方法の提供を指示し、この情報が資料利用のよすがとなる。この変遷や淵源を遡及的に探り、状況を整理する。事例に選んだ『社会経済史学』誌は、1930 年代からの論文がオンライン公開され、検証しやすい。日本の江戸時代以降を扱う論文に絞り一定期間ごとに抽出した記載実例と、同誌の投稿規定・執筆要綱とを確認することで、記載の変遷や影響関係を把握する。

メタデータ標準類の概観からは、共通の情報要素(収蔵者名, コレクション名; [個別資料参照時] 資料タイトル, 資料番号), 図書資料やその部分の参照という公刊文献の参照方法との近似, 英国規格「未公刊文書の引用のための勧告」(BS6371:1983) の影響, 等が明らかになる。『社会経済史学』所収論文の事例からは、論文筆者による多様な記載, 資料群名・資料タイトルの表示, 資料番号欠如の傾向, 等などを見いだす。以上から、利用時のアーカイブ資料の識別可能な参照は、公刊文献参照全般の脈絡に位置する一方、日本では学術コミュニティごとの暗黙の了解による省略かアカデミックライティング上のアーカイブ資料識別可能性への認識の偏差に影響を受けていることを指摘する。

Identification methods of archival material in citations or bibliographical references

NISHIMURA, Yukiko†; GOTOH, Haruyoshi†

† The Kyoto University Museum

In this paper, we show an overview of the explanation of archival material citations in metadata standards, and investigate how archival material citation were made in articles published in the journal of “Shakai-Keizai-Shigaku (Socio-Economic History)”. This study will reveal the following in the examples: similarities with citations in published literature, influence of British Standard BS6371:1983, variety of citation descriptions, lack of reference numbers in citations.

1. 問題の所在, 手法

アーカイブ資料を提供する実務経験では、利用し参照するアーカイブ資料を特定できる表示の記載方法について、しばしば利用者に問われることがある。これは、利用者の慎重さのあらわれか共通理解の欠如と推測できる。はたして日本では、アーカイブ資料の参照または引用の方法に関して、管見のかぎり先学の導きはない。

そこで本報は、アーカイブ資料参照の記載方法を指示するアーカイブズのメタデータ標準類の状況を整理し、参照の記載実態としてアーカイブ資料を利用した論文を日本の学術雑誌の一例からながめ、参照または引用におけるアーカイブ資料の識別を考察する。

メタデータ標準類と学術論文の各記載を見較べる方法は、記載方法の規範と現実の検討として、さほど突飛ではない。ただ、前者と後者の間には前者に従って作成される記述ないし検索手段（資料目録）があり、本報は日本の資料目録における参照または引用方法の案内の分析を欠く。日本のアーカイブズ世界でのメタデータ標準類の受容の遅れや偏りをおもえば、資料目録当該部分博搜の結果に期待できなかった。本報外の議論に委ねたい。

2. メタデータ標準類の指示するアーカイブ資料の参照方法

いまやアーカイブズのオンライン資料目録やデジタルアーカイブは普及し、メタデータ標準類の一つ EAD, *Encoded Archival Description* (1998～) に則っている例も多い。EAD には、望ましい引用<prefercite>という要素があり、出版物の著作者表示において資料をいかに利用者が引用すべきか規定するため、とある[1]。その例示の一つは、つぎのとおり。

[Identification of item], Arequipa Sanatorium Records, BANC MSS 92/894c, The Bancroft Library, University of California, Berkeley.

(A)各資料の識別記号（資料番号）、(B)コレクション（資料群）名、(C)コレクション番号、(D)資料収蔵者、の4つを記す。かかる説明や例示は、EAD が範とした MARC にもある。MARC21 での該当フィールドは 524 で、いくつかある例示の一つをあげる[2]。

524 ##\$aSmithsonian Archives Record Unit 54, Joseph Henry Collection, 1808, 1825-1878, Box 1, Folder 6, Item 3.

EAD<prefercite>の例と異なり、(D)か(C)の相当情報、(B)、(A)の順に記す。この例は、アーカイブ資料用 MARC の MARC-AMC (1985～) から継承され、その注記によれば archival practice による記録単位の記載である[3]。MARC の他例の記載順では、最初に(A)はなく替わりに(E)各資料のタイトルが位置することもあり、要素互換性をうかがえる。

符号化標準類と対応する記述内容の標準類の一つ DACS, *Describing Archives: A Content Standard*に聞けば、注記要素のうち **7.1.5 Citation** で望ましい様式を示すものとする。第1版(2004)では順に(B)、(D)を記す例しかなかったが、第2版(2013)から(F)URL, (B), (C), (D)と記す例が加わった[4]。追加の例は、各資料でもコレクションでも適用できる。DACs の淵源の一つ APPM, *Archives, Personal Papers, and Manuscripts* では、第1版(1983)になく、第2版(1989)より注記エリアのうち **1.7B.15 Preferred citation of described materials** が出現し、MARC と同一の例示を含む[5]。

カナダ RAD, *Rules for Archival Description* では、2002 年修正に 1.7A5 で引用の説明があり、記述の国際標準 ISAD(G)にはアーカイブ資料の引用方法の言及は見つからない。

3. 英国規格「未公刊文書の引用のための勧告」(BS6371:1983)の再発見

イギリス MAD, *Manual of archival description* 第3版(2000)を見て、Reference coding

の文脈で引用への言及があるとともに術語集の Citation 項に〈引用の標準がある〉として「BS6371/1983」の参照があり[6]、第2版（1989）から出現するらしいことがわかった。この英国規格「未公刊文書の引用のための勧告」[7]は、管見の限り日本のアーカイブズ世界での紹介はない。詳しい紹介は別の機会にあらため、つぎに内容を摘記しておく。記述要素として a)作成者名、b)タイトル、c)日付、d)資料分類；位置要素として 1)場所、2)収蔵者（機関／個人）、3)請求番号、4)資料単位中の位置をあげ、参照方法の体系により a)～d)と 1)～4)の組み合わせと順序が変わる。およそ a)～c)と 1)～3)は必須に見え、これまで見たメタデータ標準類の示す方法は慣行的に影響を受けている可能性がある。

4. 日本の学術雑誌にみるアーカイブ資料の引用：『社会経済史学』誌の場合

ここから学術雑誌掲載論文の記載状況を概観する。事例とする『社会経済史学』誌は、1931年創刊で現在86巻まで続いている。対象論文は、日本の江戸時代以降を扱う論文で10巻（年）ごとに6篇を選び、アーカイブ資料引用に該当しないか数に不足があれば前後の巻号からの抽出に替えるものとし、55件を得た。また、ここで取り上げるアーカイブ資料は、資料集等の二次資料からの引用ではなく、一次資料からの引用を対象としている。

なお、同誌の引用方法を指示する存在に、投稿規程（定）と執筆要綱をあげる。投稿規定は37巻5号（1972年）から、執筆要綱は65巻1号（1999年）から誌面に掲載される。アーカイブ資料の引用等の言及は、83巻1号（2017年）掲載の執筆要綱（以下「要綱2017」と略す）に確認できる。要綱2017は「個別資料名、必要に応じて年代、所蔵機関による資料番号」による言及を求め、対象資料群が1つだけなら資料群名省略、資料番号のみの記載をゆるし記載の冗長を避ける[8]。

対象論文中、最初に出現する引用等記載を分析し、その結果を表1に整理した。

抽出巻	1,5	10,14,15	20,25	29,34,35	41,44,45	51,55,56	59-61,65	70,71,75	80-81	(51件中)	83-86
刊行年（西暦）	1931・35	1940-48	1954・59	1963-69	1975-79	1985-90	1993-99	2004-09	2014-15	小計	2017-20
資料タイトル	6	6	6	5	5	4	5	6	3	46	1
所蔵者	5	4	6	4	6	3	6	5	1	40	4
作成年（日付）	5	3	6	3	3	3	3	5	0	31	1
資料群名	0	2	3	3	2	6	4	2	3	25	4
資料番号	0	0	0	0	1	2	2	4	2	11	4
作成者	1	1	1	0	1	1	1	0	0	6	1
資料形態	1	2	0	0	0	0	0	0	0	3	0
本文・注等に分散	0	1	5	2	3	1	2	0	0	14	4
資料目録にあり	0	0	0	1	2	2	1	3	2	11	3

注1. 要綱2017よりも前の事例総数は51件、同後は4件。小計は要綱2017よりも前を集計した。

注2. 縦見出し「本文・注等に分散」は、引用等記載が本文・注・参考文献等に分散しているもの。

注3. 縦見出し「資料目録にあり」は、いま当該資料の存在を資料目録等で確認・追跡できたもの。

表1. 『社会経済史学』中のアーカイブ資料引用記載の状況

引用等記載の場合は、(1)本文のみ、(2)注のみ、(3)本文・注・参考文献等、に分けられる。とくに(3)の場合、論文全体で引用等記載がその内容を相互に補完し合う状態が多く、読者に最初から読み進めていくことを強いる。要綱2017以降は、文末参考文献一覧中に資料群名、所蔵機関名の記載を求められるため、既に注で記載されている引用等記載と一部重複があった。

記載の形式は、要綱 2017 よりも前、**資料タイトル**は 51 件中 46 件と記載必須項目に近いと言えらるとともに、各論文により相違、多様性も見出せた。巻号の若い時期では**作成者**の記載だけがあった一方、1975 年以降それに加え／代わって**資料番号**が記載されていく傾向にあった。**資料番号**の記載は、対象資料が整理されその資料番号で識別されていることをうかがえ、ほぼ**資料目録にあり**と対応する。**資料目録にあり**は、論文中で資料目録の存在が記載されている場合は特定しやすく、それ以外は存在の確認から必要であった。

5. 考察

要綱 2017 よりも前、抽出論文全体での引用等記載は表 1 縦見出し**資料タイトル**以下 7 要素を数えたが、じょじょに使用しない要素が増え、要綱 2017 以降およそ 3 要素：**所蔵者・資料群名・資料番号**の記載に収斂された。要綱 2017 以降、日付（年代）は「必要に応じて」のため記載必須ではないとしても、**資料タイトル**（個別資料名）は記載必須ながら出現が少ない。アーカイブ資料の識別には前述 3 要素で十分とする共通理解が、社会経済史学のコミュニティにおいて形成されたかもしれない。要綱 2017 よりも前は、**資料群名**のかわりに**所蔵者・作成者**、**資料番号**のかわりに**資料タイトル・日付・作成者・資料形態**といった補完関係で、アーカイブ資料を識別していたようだ。読者にとっては、要綱 2017 による引用等記載の定型化で把握しやすくなり、引用等記載だけの利用も可能になった。

なお、**資料目録にあり**に数えられながら**資料番号**のない分は 1970 年代以前に見られ、資料番号がアーカイブ資料の識別の必須要素とおもわれていなかった可能性を示す。

6. まとめ・展望

いま検討した『社会経済史学』誌所収論文の事例だけでは、デジタルアーカイブ等の資料識別の影響は見出し難く、メタデータ標準類全般に広げても同様である。ただ、それらメタデータ標準類が影響を受けたであろう英国規格「未公刊文書の引用のための勧告」BS6371:1983 の要素は、要綱 2017 で明示される以前の同誌所収論文事例より得た引用等記載の記載要素と対応していた。公刊文献参照に似せて多様なアーカイブ資料識別の記載があり、論文著者ないしグループごとの作法の慣行の存在をうかがえる。

学術雑誌掲載論文では、執筆要綱の規制がなければ引用等記載はその記載の場が広く不定型になりやすいようであった。もちろん『社会経済史学』誌の事例の充実や他誌の状況把握も必要で、展示等のアーカイブ資料利用における引用等記載の把握も課題である。

注・参考文献

- [1] “Preferred Citation”. EAD Tag Library. TS-EAS, SAA; LoC.
<http://www.loc.gov/ead/EAD3taglib/EAD3.html#elem-prefercite>（参照 2020-03-22, 以下同）
 - [2] “524 - Preferred Citation of Described Materials Note (R)”. MARC 21 Bibliographic.
<https://www.loc.gov/marc/bibliographic/bd524.html>
 - [3] “524 PREFERRED CITATION OF DESCRIBED MATERIALS (NR)”. MARC for Archives And Manuscripts: the AMC Format. Sahli, Nancy Ann. Society of American Archivists, 1985, <https://catalog.hathitrust.org/Record/000582668>
 - [4] “Citation”. Describing Archives: A Content Standard. 2nd ed., Society of American Archivists, 2013, p.78., http://files.archivists.org/pubs/DACS2E-2013_v0315.pdf
 - [5] “Citation”. Archives, personal papers, and manuscripts. 2nd ed., Society of American Archivists, 1989, p.31., <https://catalog.hathitrust.org/Record/002619326>
 - [6] Procter, Margaret; Cook, Michael. Manual of archival description. 3rd ed., Gower, 2000, xx,300p.
 - [7] BS6371: 1983. Recommendations for Citation of unpublished documents. British Standards Institution.
 - [8] “『社会経済史学』への投稿について”. 社会経済史学会ホームページ.
http://sehs.ssoj.info/jp/contents/seh_toko.html（2019 年 2 月, 2020 年 1 月に改定あり。）
- ※本報の一部は、令和元年度アーカイブズ・カレッジ短期コース修了論文（西村）を基に加筆修正した。

正誤表

西村由希子，五島敏芳．文献参照または引用の記載にみるアーカイブ資料の識別．日本アーカイブズ学会 2020 年度大会 ポスター研究発表要旨・自由論題研究発表会資料・講演会資料・大会企画研究会資料．日本アーカイブズ学会[編]．オンライン，2020-11-08，日本アーカイブズ学会．日本アーカイブズ学会，2020，p.22-25．

※対象部分に下線を引いた。

○24 ページ，表 1 最右列

(誤)			→	(正)		
抽出巻	…	83~86		抽出巻	…	83~86
刊行年（西暦）	…	2017~20		刊行年（西暦）	…	2017~20
資料タイトル		<u>1</u>		資料タイトル		<u>2</u>
所蔵者		4		所蔵者		4
作成年（日付）		<u>1</u>		作成年（日付）		<u>2</u>
資料群名	…	4		資料群名	…	4
資料番号		4		資料番号		4
作成者		<u>1</u>		作成者		<u>2</u>
資料形態		0		資料形態		0
本文・注等に分散	…	4		本文・注等に分散	…	4
資料目録にあり		3		資料目録にあり		3

（同列「資料タイトル」「作成年（日付）」「作成者」の各値を「1」から「2」へ）